



平井谷ノ入地区にある東光院境内の小高い丘の上には、関東でも珍しい韓国風の極彩色の妙見宮七星殿が建っています。その歴史は古く、天武天皇の時代まで遡ります。残念ながら当時の建物は、明治15年(1887)に平井川北岸の一角を焼く大久野焼けと呼ばれる大火事で全焼してしまいました。現在の建物は昭和62年(1987)に韓国の資材と職人によって、創建時の趣旨を再現して建てられたものです。妙見信仰では、常に北の空の中心に位置する北極星を、運命をつかさどる妙見菩薩として祀っています。

毎年5月3日には妙見まつりが開催され、地元の桜木囃子などが披露されます。

みょうけんぐう
妙見宮